

■ 本社周辺分会 活動ポイント

現場活動	★会社と組合（以下労使）の連携により、メンバーの働き方が良くなっている状態を目指します ①労使関係の構築 ②中期経営計画を実現するためのチェックとサポート ③労使時間管理確認会の活用
情報の共有と収集	★執行委員（専従・兼任）と評議員、職場委員との連携が強化され、情報共有により現場活動活性化、労使の取組に繋がっていることを目指します ①職場委員会の活用 ②仮説に基づき役員を活用した現場での情報収集、経営とのパイプ機能 ③好事例の波及・活用
コミュニケーション	★組合活動を通してやりがいや楽しさを体現できる分会独自の企画を実行します ①分野別活動 ②レク活動



分会長：中村 毅史

■ 具体的なアクション

現場活動 “行動”	①労使関係の構築 ・前期から労使で職場環境改善に取り組んでいる所属は継続して取り組みます。 →21年下期、22年上期の組織体制に対して、働き方をテーマに役員と連携して、職場委員会や必要に応じてテーマ別ボイス等を実施します。そこで出た意見を労使会議に繋いでいきます。メンバーへの組合活動・労使の取組が見えるよう体制を整えていきます。 ・分会単位からさらにグループ化をし、新しく労使関係を構築する所属をふやします。 職場委員会を活用し、所属の個性に応じた職場懇話会に繋いでいきます。
	②中期経営計画を実現するためのチェックとサポート →会社の働き方の変化に対し、現場活動を通して検証を行います。（例：グループ連邦、マルチタスク、社内内製化等）
	③労使時間管理確認会の活用 →労使会議を活用し、時間管理を軸に個別に所属へヒアリング等、改善に向けたアプローチを行います。
情報の共有と収集 “考え”	①職場委員会の活用 分会全体職場委員会と個別職場委員会を、隔月で開催をし、全体の情報共有と個別の問題解決を図ります。
	②仮説に基づき役員を活用した現場での情報収集、経営とのパイプ機能 →全体をチーム毎にグルーピングし、仮説の元、検証します。 メンバーから得た情報は経営に繋がります。一方で、経営の情報を正しく現場へ伝えることで、働きやすさに繋がられる情報共有を行います。
	③好事例の波及、活用 →組合役員の現場活動における手段の好事例の共有をし、分会活動を活性化させていきます。そのための役員用の情報ツールなどを整理し、周りのメンバーからの相談により応じられる体制づくりを進めます。
コミュニケーション “つながり”	①分野別活動 分野別活動を通じて役員同士・メンバー同士の繋がりを深めていきます。 ・広報・教育→メンバーと役員の接点を増やすための活動を行います。広報は、役員体制の周知拡散をします。教育は、共済会、協約や制度の知識等、役員の知識向上を図ります。 ・ダイバーシティ推進→男性の育児休暇取得についてヒアリング、介護セミナー等、分会特性に応じ企画します。 ・社会貢献→愛の募金活動、干潟清掃活動等の支部全体の取り組みを役員やメンバーの繋がり作りに活用していきます。
	②レク活動 役員としてやりがいや楽しさを体現できるよう、役員やメンバーが任意で参加できるものを企画立案していきます。

■新宿分会 活動ポイント

新宿分会共通のポイントとして①コミュニケーションの活性化 ②働く環境の改善に取り組みます。

<p>コミュニケーションの 活性化</p>	<p>■課題の抽出→深堀→解決のサイクルを行いコミュニケーションの活性化を図ります。 ・テーマ別VOICEや職場委員会を行い、メンバーとのコミュニケーションを図ることで課題解決へと繋げ、また新しいつながりや気づきの創出も図ります。 ■従業員一人ひとりの疑問や悩みを解決します。 ・身近な人には話しにくいことを相談したい、ロールモデルになりえる人と話したい、などの機会の提供をします。 ■人事制度や働き方に関するメンバーサポートを行います。 ・メンバーからの問い合わせに円滑に対応できるよう、直近の労使協議の理解を深められる機会を評議員へ提供します。</p>
<p>働く環境の 改善</p>	<p>■職場環境施設の改善をします。 1) 全店での取り組みについて ・各営業部やスペシャリティストアの安全衛生について会社との巡視や確認を行います。 ・営業部間での情報交換を行い、働きやすさについて店とも共有しながら活動の改善に努めます。 2) 営業部独自での取り組みについて ・職場委員会や職場懇話会を通じて営業部特有の働く環境の改善に取り組みます。 ■適正な時間管理を行います。 ・適正な時間管理のもと勤務ができている状態を目指し、長時間労働の実態を把握し改善に努めます。</p>



分会長：国岡 真哉

■具体的なアクション

<p>コミュニケーションの 活性化</p>	<p>■営業部独自のコミュニケーションの活性化と働く環境の改善に取り組むため、課題の抽出→深堀→解決のサイクルを回します。 職場委員会を実施（役員） ⇨ テーマ別VOICEの開催（メンバー） ⇨ 営業部単位での職場懇話会の実施（労使） ・営業部特性に応じた課題の吸い上げから解決に向けての活動に取り組むために毎月または隔月毎に職場委員会を行います。 ・共通テーマの取り組みを中心に職場課題、育児や介護などダイバーシティ活動など広義にテーマを決めて活動を議論します。 ・職場委員会や日々の意見集約で抽出された課題を主なテーマとして、該当する組合員対象にテーマ別VOICEを実施します。 ・抽出された課題を労使で解決策を導き出すために所属との懇話会を実施し、開催方法と開催メンバーは内容や時期に応じて各営業部の状況に応じて設定します。</p> <hr/> <p>■新たな人とのつながり、気づきや課題解決策を導き出すため営業部を超えたテーマ別VOICEを行います。 ・働き方や職場風土などの観点で、新宿店の強みである営業部特有の個性や工夫をテーマ別VOICEを通じて共有し、新しい気づきや改善策へと繋がります。</p> <hr/> <p>■身近な人には話しにくいことを相談したい、ロールモデルになりえる人と話したい、など営業部を超えた“ちょっと斜めのメンター”として執行委員がお手伝いします。 ・執行委員のプロフィール整理⇨ナナメンターの活動基盤の確立⇨組合活動とナナメンターの周知を2021年度中に始め、2022年度中での活動浸透を目指します。</p> <hr/> <p>■店舗の現況を把握し、メンバーの声を店と共有する機会を作り働く環境の整備に取り組みます。 ・職場懇話会を原則2か月に1度実施し、店舗の営業方針や営業現況の確認、働く環境含めた直近のメンバーの声を店と共有・議論し、働きやすさ向上を目指します。</p> <hr/> <p>■制度に関わるメンバーの不安解消につなげるため評議員対象の職場委員会を実施します。 ・より適正な評議のサポートと、周囲のメンバーからの円滑な質疑回答のために、ポイントになりうる時期に労使通年協議の内容に特化した職場委員会を実施します。</p>
<p>働く環境の 改善</p>	<p>■一人ひとりのメンバーがより安心して働ける環境を構築できるように店と毎月の状況を確認し適宜改善します。 ・職場巡視は各営業部役員と連携し、バックヤード含めた施設・設備面の維持向上、法対応や新宿店全体を通じた安全衛生の取り組みを行います。 ・今年度は特に“休日出勤の撲滅”を目指し、毎月の労使時間管理確認会で実態把握と改善に向けた議論を行います。</p>

■ 日本橋分会 活動ポイント

<p>経営対策活動</p>	<p>★賞与をはじめとする労働条件の原泉である日本橋本店の収益目標達成に向けて、私たちが21年度の店舗方針の施策に取り組む中で現場レベルで起きている課題の把握と解決に向けたチェックとサポートをおこないます。</p> <p>1) 「外商顧客への施策」や「サテライトへの施策」に、各営業部が取り組む中で、それぞれの営業部双方間から出た課題の解決に取り組みます。</p> <p>2) 「新規顧客への施策」に取り組む中で起きている様々な課題の把握と解決に取り組みます。</p>
<p>働く環境の整備</p>	<p>★メンバーが安心して働くことのできる職場環境づくりに取り組みます。</p> <p>1) 「内製化」や「働き方を方を変える：日本橋に勤務する全員が『一人二役』の働き方をする」など、私たちの働き方に影響のある取組みについて、理解の浸透と、進める中での課題解決に向け取り組みます。</p> <p>2) 長時間労働の実態把握と所属における業務改善を通じ、その撲滅に取り組みます。</p> <p>3) ハラスメント防止、対話職場風土の実現や、コロナ関連から出るメンバーの不安に寄り添い取組みを実行します。</p> <p>4) 働きやすさの観点から、施設・制服の見直しについて労使で取り組みます。</p>
<p>分野別活動</p>	<p>1) 広報：分会における組合活動を周知し、組合活動をよりメンバーにとって身近に感じられるようにします。</p> <p>2) 教育：新入組合員との接点や組合活動や共済制度に対する理解につなげます。</p> <p>3) ダイバーシティ：共通テーマからメンバー同士の繋がりや相互のサポートにつなげます。</p> <p>4) 社会貢献：組合が取り組んでいる社会貢献活動に参加することで、組合活動や社会全体の課題などの幅広い視野を持てるよう取り組みます。</p>



分会長：濱野 洋一郎

■ 具体的なアクション

<p>経営対策活動</p>	<p>①テーマ別VOICE・職場委員会：店舗方針の施策に取り組む上での課題をテーマ別VOICEや職場委員によるヒヤリングにより把握します。</p> <p>②営業部・店経営との職場懇話会：テーマ別VOICEやヒヤリングから把握した課題を、営業部や経営との職場懇話会で共有し解決にむけた意見交換を行います。</p> <p>③経営懇話会との連動：テーマ別VOICEや職場委員会などで集約した課題のうち三越伊勢丹全体に関わる内容は三越伊勢丹支部全体で共有し、必要に応じて経営懇話会の場で三越伊勢丹経営に繋がります。</p>
<p>働く環境の整備</p>	<p>①内製化や一人二役の取組み、テーマ別VOICEや兼任役員を通して状況確認を行い、店・所属を通じて解決に繋がっていきます。</p> <p>②労使で長時間労働の実態を確認し、組合役員を通じて課題の把握を行い、営業部毎の職場懇話会等を通じ改善につなげます。</p> <p>③関心の高い、コロナ関連、福利厚生に関する職場の課題は組合役員と連携し、労使で毎月開催している安全衛生委員会などを活用して日本橋本店や各営業部と共有し、改善・解決に繋がります。</p>
<p>分野別活動</p>	<p>①広報：分会活動を分かりやすく分会メンバーに発信する手法を検討・実施します。</p> <p>②教育：新入組合員教育（フレッシュプラン）を開催し、組合活動・共済制度に対する理解と組合活動を身近に感じられる機会とします。</p> <p>③ダイバーシティ：本部や支部と連動し、育児や介護、疾病等、仕事の両立に関するVOICEやサポートにつながる情報共有をおこないます。</p> <p>④社会貢献：愛の募金活動をはじめ、本部や支部全体で実施する社会貢献活動の情報を積極的に発信し、より多くメンバーの参画につなげます。</p>

■銀座分会 活動ポイント

働く環境	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な時間管理に向けて、長時間労働や時差時間につながる原因を見つけ、課題解決につなげる。 ・安心安全に働ける環境の整備に向けて、バックヤード・福利厚生施設の環境改善に向けて取り組む。 ・銀座店のメンバーが生き生きと楽しく働ける職場環境を目指す。
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・組合役員の活躍や組合広報の活用によって、組合活動やその意義をより多くのメンバーに知ってもらい、頼られる組合を目指す。



分会長：小松 義尚

■具体的なアクション

働く環境	<p>① 適正な時間管理に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働、時差時間削減に向けて、安全衛生委員会の労使確認と毎月の時間管理データをもとにした個別ヒアリングを行い、改善策を会社側へ提言する。 ・時間管理ルールを分会広報を通じてメンバーへ発信し、時間管理知識・意識の向上につなげる。
	<p>② バックヤード・福利厚生施設における環境改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場の状況を役員からタイムリーに吸い上げて、専従店内巡回または労使職場巡視の時に現場の確認を行い、必要に応じて安全衛生委員会の時に会社側へ改善を促す。 ・安全衛生委員会、職場巡視実施後分会広報を通じてメンバーへ報告し、環境整備に対する意識向上につなげる。
	<p>③ メンバーが生き生きと楽しく働ける職場風土・環境に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀座店の現状や方向性を踏まえ、役員から得た情報の仮説を基にテーマ別VOICEを行い、その内容を営業部懇話会または職場懇話会で会社側へ共有する。
情報共有	<p>①メンバーに向けた組合情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分会広報を月1回を目安に発刊し掲示板や役員を通じてメンバーに発信する（働き方関連・安全衛生委員会・職場委員会、職場懇話会実施報告など）。あわせて組合相談窓口を記載し、いつでも誰でも組合に相談できるフローを周知する。
	<p>②役員とメンバー間の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場委員会開催前のメンバー対象ヒアリングや、役員用teamsを活用した組合情報共有（支部広報など）を行い、役員を通じて組合情報をメンバーに周知拡散する。
	<p>③他分会とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀座分会と他支店分会間の情報共有として、支店3店合同職場委員会をおこなう。

■立川分会 活動ポイント

現場活動	①立川店の様々な方針に対して、仮説を持ったテーマ別VOICE等実行する。 ②社会貢献・ダイバーシティ活動は、立川店独自の悩み・困りごとに寄り添った企画を実行する。
労使協議	①労使関係の構築を強化する。 ②立川店の方針に関するサポートとチェック機能を強化する。 ③支店3店の共通の課題を共有し、職場懇話会に繋げる。
役員育成	①兼任役員は今期集中・強化する活動を明確にし、兼任役員主体の組合活動を行う。 ②メンバーとの密接な関係性作りのため活動単位を細分化し、フロア担当制で活動することを実行する ③職場委員会は、毎月1つの議題に定めて議論し合い、解決策を出し合う体制をつくる。



分会長：森元 静一

■具体的なアクション

現場活動	①立川店の様々な方針に対して、仮説を持ったテーマ別VOICE等実行する。 ➡ギフトセンター自主運営化、サテライトショップ出店等の方針に対して、仮説を持ってメンバーへヒアリングする機会の実効性を高める。
	②社会貢献・ダイバーシティ活動は、立川店独自の悩み・困りごとに寄り添った企画を実行する。 ➡立川店メンバーの働く上での悩み・困りごとに寄り添った企画を立案し、テーマ別VOICEまたは勉強会など実施し、改善に繋げる。
労使協議	①労使関係の構築を強化する。 ➡職場懇話会を3カ月に1回、ミニ懇話会を1カ月に1回、立川店に関わる情報や意見交換する機会を適宜行い、定着活動とする。
	②立川店の方針に関するサポートとチェック機能を強化する。 ➡（サポート）メンバーへの正しい理解に繋げるため、役員への知識を深める機会を別途設定し、確認し合う。 （チェック）職場委員会等で議論・課題解決策を出し合い、懇話会に繋げる体制を定着化する。
	③支店3店の共通の課題を共有し、職場懇話会に繋げる。 ➡各店の課題や好事例、定量的な各店の状況を共有した上で報告し、説得力に繋げていく。
役員育成	①兼任役員は今期集中・強化する活動を明確にし、兼任役員主体の組合活動を行う。 ➡広報は組合活動の周知・強化、教育は自主的に学べる教育の推進と立川店メンバーの相談窓口を担う。 社会貢献・ダイバーシティは立川店独自の悩み、困りごとを抽出し、企画立案は評議員・職場委員で行い、運営まで担う。
	②メンバーとの密接な関係性づくりのため活動単位を細分化し、フロア担当制で活動することを実行する。 ➡担当毎に働くメンバーの声をアンケート等利用して集め、課題に気づき、具体的な解決策まで含めたサイクルを意識した活動を実行する。
	③職場委員会は、毎月1つの議題に定めて議論し合い、解決策を出し合う体制をつくる。 ➡インプットの間からアウトプットの間へ変える。各自が事前に課題を考え、職場委員会で議論し、解決策までたどり着くことを意識する。

■浦和分会 活動ポイント



分会長：佐藤 充彦

改善へ取り組む意識改革と仕組みを構築します

- ①適正な時間管理を推進していきます。
- ②適正な働き方を推進していきます。

課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の活動から主体的な活動への変更⇒分会全体で課題の共有と方向性のとりまとめ。「課題解決の方向性を全メンバーで合わせる」 ・結果を意識する事⇒メンバー全員で、解決に向けて考え行動する ・役割分担の明確化⇒専従・兼任執行委員、評議員、職場委員のやるべき事を具体化する。
労使協議	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な組合発信⇒会社発信を待つではなく、組合から意見を発していく協議体制。 ・三位一体（組合・会社・メンバー）の役割の明確化⇒1つの課題に対してそれぞれがどう動いていくのかを明確にしていく。
分野別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・広報：一般組合員への組合活動の浸透強化⇒専従⇄分会担当者の役割を明確にし、情報発信が一般組合員まで届くようなスキーム構築。 ・教育：分会課題や相談をテーマにした人事制度、働き方の教育⇒制度・働き方知識の向上。 ・社会貢献：地域に根差した浦和店だからこそその活動推進⇒うらわ学園との交流や地域と連携した社会貢献の取組実施。

■具体的なアクション

課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別職場委員会開催 ⇒1つの課題に対して、全メンバーのベクトルを合わせる為、解決の目標設定を明確にする為に実施。ここで、ある程度の議論方向性を明確にし、解決までの道筋をつける。 ・支店3店合同職場委員会開催 ⇒支店が抱えている共通の課題感を意見共有し、中央に挙げる土台をつくと共に、各店の好事例の共有をすることによって、課題解決の方向性を併せていく。
労使協議	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗及び結果の公表と役割の明確化 ⇒上記議題解決に向け、各会議毎にそれぞれの役割を明確化し、次回会議までに行動。また進捗は広報として一般組合員まで共有する。 ・週1回の専従現場確認 ⇒現場の状況を週に1回を目あすに確認をし、兼任メンバーとも連携を取りながら課題の進捗確認を行う。
分野別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・広報：現場課題の進捗定期発信 ⇒一般組合員の組合活動への関心度向上の為、店舗の現場課題解決に向けた動きを定期的に広報誌で発信 ・教育：いつでも・どこでも・誰でも受けれる教育の周知と相談の一時窓口としての機能構築 ⇒メンバーの一番近い相談窓口としての機能確立。広報と連動し、教育関係の発信物（お悩みQ&A等）の紹介。 ・社会貢献：うらわ学園とのコラボ企画を定期開催。 ⇒兼任メンバーが主体となり、一般組合員と連動した企画の実現。組合活動の浸透強化